

## IBC2004 ケアズのは空は青かったか

京都大学医療統計 佐藤俊哉

2004年7月10日(土) 関空は大雨

今回は7泊なので着るものがさすがに多くなる。パッキングを済ませ、月曜の発表準備に、人には発表準備は1週間前にすませておくように、と常々いっているながら自分がこれでは情けない。実は、いよいよ尻に火がついて、昨日の理科大からの帰りの新幹線の中でやっつけるつもりが、朝、理科大で講義を始めたとたんにダイナブックが倒れ、復活しなくなったためなにもできず、急遽妻に連絡してノートパソコンを持ってきてもらうことにし、なんとか出発前に準備だけはすませたいという魂胆である。

幸い飛行機の出発が午後8時半と遅いので、4時くらいには準備も無事済み、昨年死んだとみんなから思われていたレーザープリンタを動かしたところなんと生き返ったので、原稿もプリントアウトでき、万全の準備ででかけられることに。関空まではいつもMKスカイゲイトシヤトルを利用して、4時40分にくるとゆうべ電話があったのだが、10分くらい遅れて迎えにきた。このあと運転手さんは高速を飛ばしに飛ばし、6時20分には関空についたのが驚いた。オーストラリア航空のカウンターでチェックインしていると前方を大分大学の越智先生がチェックインされていた。

妻がパソコンの電源アダプタは持ってきたかと聞くので、ヨーロッパ用のは持ってきたというと、オーストラリア用のコンセントは八型でなければだめだということで、空港の売店で2個で600円もするコンセントを買う。ついでに丸善で地球の歩き方と週刊ポストを買ってゲートに。ゲートは出発前だというのにガランとしていて、座って待っていると突然雷が鳴り大雨となった。しばらくすると「大阪地方の悪天候のため当機は搭乗が遅れています」とアナウンスがあり、結局30分ほど遅れてようやく搭乗開始。

それはそれはちっさい飛行機で、しかもがら。機内食は、ビーフのなんとか炒めかベジタブルラザーニャで、迷わずラザーニャ。会社も飛行機も小さいく機内食もほんのちょっとだったが、まずい機内食には常日頃からあきあきしていたので、こんなものでちょうどいい。しかも腹が減っていたので、ラザーニャをこんなうまい機内食は食ったことがない、などいいながらワインを飲み飲み食べる。一旦寝ようとしたが寝られず、ビールをもらいにいき、ピクトリアビターを飲んで寝る。

7月11日(日) まだ機内

それでも2時間くらいは寝られたか。ケアズに5時着予定なのでたちまち起こされ、朝食はマフィンとジュースとコーヒー。これまたほんのちょっとだが、こんなもので十分。小さい航空会社だがなかなかいいではないか、と思っていたのもつかの間、コーヒーを一口飲むや「濃いー」、「まっじー」、「死人も目覚める」ほどまずかった。

そんなこんなでケアズに5時10分に到着。早朝で人もいないので入国にも時間もかか

らず、空港からタクシーをゲットして、10分くらいでこれから1週間滞在するラディソンプラザホテルに到着。ゆうべから部屋を押さえてあるので、すぐにチェックインすると、バルコニー付きのダブルの立派な部屋で、これには妻も満足そう。

シャワーを浴びて昼まで一寝入りする予定が、6時10分には部屋に入ったのにフロントからスーツケースがなかなか届かないため着替えができずシャワーも浴びられない。妻はこのまま寝ていけないなんて誰が決めたとか何とかいいながら寝てしまった。こっちだってはやく寝たかったのだが、しかたなくスーツケースが届くまで待って、それからシャワーを浴び、さっぱりして7時過ぎによく寝る。

気がつくともう11時半。朝は小雨が降っていてちょっと寒いくらいだったが、晴れていい気候になっていた。妻も起きだしてきてシャワーを浴び、着替えをすませ、お昼でも食べることに。ホテルに隣接しているピアマーケットプレイスに行くと、理科大の吉村先生が奥さんと二人で歩いていたので、挨拶する。その後、ホテルから出て、エスプラネード通りをうろうろし昼食によさそうな店を探すことに。美術館のカフェがえらくはやっていたのと、機内の雑誌に美術館のカフェはお薦めと書かれていたのでそこに入ることに。

妻はブローン(えび)サンドイッチ、わたしはチキンフォカッチャ、アイ스티ー。味はまあまあで、妻いわく「ふつー」という評価。食後、セントラルショッピングセンターへ向かい、Myer'sというデパートをみるが、体裁のいいものばかりなのでそうそうに会場のコンベンションセンターに。レジストレーションを済ませ、ホテルにもどる。ピアマーケットプレイス内のボトルショップでビールやワインや水をゲットしようといくと改修中でやっておらず、ずがん。

さすがにもう一度外に出てビールを買いに行く元気はなく、水だけ売店で買って部屋に戻る。バルコニーで水を飲みくつろいでいると、お腹の具合が悪くなり、4時過ぎだったがもう一度寝ることに。気がついたら6時。起きて発表練習。いよいよ8時には腹が減ったのか妻も起きてきて、ピアマーケットプレイスのハーバービューという中華にいて軽く食べることにする。ビールを頼んでメニューをみる。マッドクラブのトウチ炒めというのも食指が動くが、かには「時価」と書いてあるのでお値段を聞いてから。

かにはいくら、と聞くと1kg75ドルというが、どのくらいの量なのかさらに聞くといけない一匹で1kgくらいというので、かにはパスし、魚と野菜の炒め物を頼む。ビールはなかなかおいしく、卵とかにのスープ、魚もけっこう。鴨のローストはちょっと硬かったものの味は悪くなく、2人で80ドルは満足のいく線か。食後、ハーバーをぶらぶらし、ホテルに戻ると後ろから「俊哉先生」と呼ぶ声が。

だれかと思ってみると、興和ので...、いや菅波さんがでっぷりでた腹をTシャツで包んで登場。一緒の理科大の寒水くん、佐藤泰憲くん、ロシュの吉原素子さんみんな同じホテルとのこと。部屋に戻ってシャワーをあび、妻がシャワーをあびている間も惜しんで発表練習。妻がシャワーから出てきて「練習どうだった？」ときくのもごもごと「練習不足が・・・」。

ケアンズは、ハワイ化しており、ホテルの表示にはすべて日本語が併記されている。レスト

ランや旅行会社には日本人スタッフがいて、テレビも NHK を放送している。今日はちょうど参議院選挙なので夜はその速報をずっと見る。体調があまりよくないので妻にマッサージしてもらい、12時半に寝る。

7月12日(月) 発表当日

今朝は発表なので少し早めに発表会場に行こうとすると、「なんとかかんとか、アンド、トシヤ・サトー、すぐに発表者ルームに出頭しなさい」とアナウンスが。みっともねえー。場所がわからないので受付に行くと菅波さんが「呼んでましたよ」、よけいなことはいわんでよろしい。あわてて発表者ルームに行くとスライドのファイルをよこせという。なんでもファイルをサーバーに乗っけて各部屋のノートパソコンにつなげるんだそうだ。だったら代わりのパソコンなんて持ってこなくてよかったものを。

ぶじすんで会場へ。もうセッションが始まるころだった。やっペー。最初の演者は QOL データの imputation の話。スライドの字は小さいしぼそぼそしゃべっててなんだかよくわからない発表だった。次の演者は生存時間解析での非劣性検定の新しい方法の提案だが、最初の演者よりもスライドの字がちっちゃくて、さらにみにくかった。次は台湾の人でゾロ薬を非劣性試験でつなく、というそれはそれで切実なのかもしれないけど、なんだかなあという話。次は地元オーストラリアの演者だったが、なんといまどき OHP の発表なのと、準備が悪かったのか結果に行きつく前に時間となる。そしたら座長が、もういいでしょう、と発表をやめさせたのには驚いた。

次はいよいよ発表。今回ほど発表の準備が間に合わなかったのも珍しく、練習もゆうべと今朝の2回ただけですよ、なんとかしてくれ。まあ可もなく不可もなくの発表だったが、そもそも臨床試験とは関係ない話なのに、なぜ臨床試験のセッションに入れられてしまったのがよくわからない。今回の IBC ではほかのセッションでもそうだが、講演時間がぎりぎりで質疑の時間がなく、これではなんのためにポスターセッションを作ったのか意味がわからない。

最後の演者はリリーの上坂さん。国際共同試験での留意点について。セッション終了後、FDA の Bob O'Neill 先生がきていたので挨拶し、菅波さんに「今日の5時から柳本先生の発表があるので、絶対でなさい。ついては、隣にぬいぐるみを置いておき、『佐藤先生もさっきまでいました』というんだ」ときつくいいつける。

終わった終わった、さあ昼食でも食べに行こう、と思ったらお昼は軽いサンドイッチ程度のものがでる模様。それではと妻とチキンサンドと水をゲットして、もはやすわるところはないので、室内の立ち席丸テーブルでぱくつく。サンドイッチとへんなサラダはいいのだが、少々量が足りないのをチョコバーとチップスでカロリーを補うのはどうかと思うよ。宮崎大の藤井先生がきて一緒に食べ、発表者は事前にファイルをわたさないといけないことを(偉そうに)教えてあげる。やっぱりしらなかった、とのこと。

午後は、セントラルショッピングセンターで冬のコートを買う。IBC には 94 年から(98 年の南アフリカ以外は)参加しているが、なぜだかいつも冬のコートを買っている。午後最後は統

計数理研究所の柳本先生の発表を聞きに会場へ。越智さん、藤井さん、広島放射線影響研究所の和泉さんなど日本勢がたくさん応援にきている。月曜のセッションはすべて終了し、6時前にホテルに戻る。

今日の食事は発表が終わったのを記念して、部屋でキャンドルライトディナーにする予定だったが、それは水曜日の夜にして、今日はシーフードを食べに「The Raw Prawn Cafe」というケアンズ随一というシーフードレストランに。途中、エスプラネード通りにあるお店では、越智さん、藤井さん、和泉さん、華山さんが食事をしていて、海の幸のスープ、ブルスケッタ、シャコに似たえびのフライ、マッドクラブを頼んだところ、シャコに似たフライはおいしかったのだが、マッドクラブは、多くは語らないでおこう。そこのあなた、ケアンズに行ったら絶対にマッドクラブを頼みなさい。帰りにサーティーワンアイスクリームでラムレーズンとピーカンを買って食べながらホテルに戻ると、またお腹の具合が悪くなる。そうそうに寝る。

#### 7月13日(火) 会議

今朝はホテルの Al Fresco レストランで朝食。アラカルトがあるかと思ったらbuffetだけで一人18ドルもとられ、あんまり食欲がないのにシオシオのパーである。buffetには和食があり、納豆まであったのには驚いた。さすがケアンズ。食後会場へ。

会場でポスターをみたりしているうちに、昼食の時間となり、水だけゲットして、久留米大学の柳川先生、越智さん、久留米大の柳川先生のところの人と歓談。途中柳本先生と上坂さんが合流。今日は12時半から Conference Advisory Committee に出席のため席をはずし、会議の部屋に。メンバーはもっとたくさんいるはずだが、出席したのは8人だけ。2008年のIBCには British Region と French Region が立候補していて、それぞれアイルランドのダブリンとパリ。

個人的にはパリがよかったが、どうもすでに話がついていたみたいで、それぞれ15分くらいプレゼンしたあと、委員会内でさしたる議論もなく、委員長がダブリンを支持する方向で総括をはじめ、パリに投票したのはわたしだけ。ま、t 検定の論文の100周年記念だそうだし、本場のアイルリッシュパブやギネス醸造所ツアーなどもあるのでいいか。

会議は2時に終わり、北里大の竹内先生がオーガナイズするセッションは3時45分からと中途半端なので、一旦ホテルに戻る。ところが、妻はどこかにでかけたようで部屋はもぬけの殻だったのでしかたなくピアマーケットプレイスへ。ふと見ると、寒水さんと佐藤くんがベンチに腰掛けてアイスクリームをなめているので、きみたち学会をサボってなにしているんだとお説教をたれていると、目の前を Fred Hutchinson Cancer Center の Ross Prentice 先生が歩いていきます。

Prentice 先生もサボっておられるし、さっきは前会長の Norman Breslow 先生もぶらぶらされていたので今回に限っては大目に見ることにし、3人でコーヒービーンズでお茶をする。菅波さんは部屋で仕事をしているそう。機構の話や吉村先生の話をしているうちに3時15分となったので再び会場へ。ブリッジングスタディのセッションで、竹内さんのところで学位を

取ったばかりの高橋さんが招待講演者としてしゃべるそうで、吉村先生は吉村研の出身者ということで喜んでいいる。

講演時間に長短はあったものの、奇跡的に時間はぴったりに終わった、と思いきや、竹内さんが一人だけ質問を受ける、と Harvard 大の Zelen 先生をご指名。Zelen 先生、バイオロジカルな理由で、外国のデータがそのまま適用できないのなら、なぜ各国で独自の III 相試験をやらないのだ、としごくもっともなご指摘。そしたら得たりとばかりにオニールさんの独演会がはじまり、結局 30 分も超過して終わる。

晩の食事は昨日藤井さん、越智さん、和泉さん、華山さんが食べていた店で、15 分待つけどいいかといわれたが、繁盛しているのを待つことに。ほどなく座れ、シーザーサラダ、マルガリータピザ、ベイクドポテトを頼み、ビールを飲み飲み待つ。ここは店内で自分で注文し、料理ができたらかケベルが鳴ってしらせるので自分でとりに行くというシステム(ということを理解するのに多少の言語学上の行き違いはあったが)。

釜で焼いたピザはパリッとしていてとてもおいしく、サラダとピザを 1 つずつで 2 人にはちょうどよい量。すっかり満腹して、ビーチを歩いて帰る。星は降るほど出ていたが南十字星は結局わからずじまい。部屋に戻ってシャワーを浴び、寝る。

7 月 14 日(水) 学会はお休み

今日は一日エクスカッションの日で学会はお休み。コーヒービーンズというスタバみたいなところでサンドイッチとコーヒーを買って部屋のバルコニーで朝食。11 時 45 分にロビーでツアーのガイドさんを待ち、ルークさんというガイドが現れ、いくつかのホテルを回ってほかのお客をピックアップした後、スカイレールの駅に向かう。キュランダ半日観光のはじまり。

最初の駅で途中下車し、あたりをぶらぶらして、30~40 分でキュランダに到着。キュランダは土産物屋(それも普通の)ばかりあるところで、普通の観光地のよう。ルークがいうには 10 年前まではヒッピーが手作りの品を売っていて、評判がよかったらしい。しかし、今は、昼はキュランダで店を開いて、夜はケアンズのナイトマーケットで同じものを売るといっていたらしく、だそう。

次はアーミーダック。ボストンでも乗ったが、第二次大戦に米軍がたくさん作った水陸両用車を払い下げたもの。オーストラリアのアーミーダックはボストンのよりだいぶ小さい感じ。こうなったら世界中のアーミーダックを制覇するかと思ったが、ほかのどこに行けばあるかがわからない。ここはレインフォレステーションというところで、トロピカルフルーツの木がいろいろ植えてあったり、ブーメランのためし投げができるが、半日ツアーは時間がないのでダックだけ。最後はキュランダ鉄道で帰ります。

駅でいいにおいがするのでたまらずポップコーンを買って、鉄道に乗り込む。ケアンズまで 1 時間 45 分もかかるというのと、みどころのバロン滝、バロン溪谷は最初の 30 分くらいで終わってしまうので、妻はほどなく爆眠。鉄道は時間通りにケアンズに到着し、それぞれホテルに戻る。今日はキュランダ観光で疲れて、とても外に食事に行く元気はありそうもない、と予想

されたので(実際にはなんてことなかったわけだが)食事は「キャンドルナイトディナー」というバルコニーにセティングしてくれるルームサービス、しかも2名さまで128ドルというリーズナブルなディナーを頼むことに。

バルコニーでのキャンドルライトディナーは2人だけでゆったりと食事が取れるし、しかもシーフードはRaw Prawn Cafeで食べたものよりおいしく(ただし、マッドクラブはどう料理しても×)、またボトルショップお勧めのジェイコブスクリークシャルドネがマッチして大満足。しばらくすると菅波さんから電話があり、食事から戻ってきたのでバーで飲みましょうとのこと。寒水くんは熱が出たとかで部屋で寝ているそうで心配だが、ワインですでにいい気分になっているので怖いものはない。バーには誰もお客さんはおらず、3人で貸し切り状態。わたしはクーパーズエール、佐藤くんはギネス、菅波さんはシーバスの水割り。佐藤くんは日本のポプ・オニールと化するのだろうか? 機構のことやらなんやらで12時まで盛り上がり話しをし、ビール2本でふらふらになって部屋に戻り、もうばたんキュー。

7月15日(木) ジャブカイディナーは高かった

今朝もコーヒービーンズからマフィンを2つとアメリカンコーヒーを買ってきてバルコニーで朝食。もうすっかり、バルコニーでの食事が恒例になる。妻はグリーン島半日ツアーなので棧橋でわかれ、会場に。みんな昼食を食べているところで、再び水だけゲットして柳川先生、藤井さん、上坂さんのグループに合流し、秋のセミナーの話などをしてCouncil Meetingに。

Council Meetingは1時半から5時までの予定。あまり具体的な話はでなかった(出席できない評議員がいるため、詳しくは後で文書を送って、そのあと投票するため)、会費値上げの話、雑誌編集の話、次回のIBCの話などの報告があり、予定よりも早く4時に終了。ちょっと会場をぶらぶらし、ディナーのピックアップが6時半に変更となったのを目ざとく見つけ、ホテルに帰る。

ツアーから帰ってきた妻を棧橋に出迎え、時間になったのでロビーに下りていくと、学会関係者が集合している。バスがきたのにみんなまだロビーでたむろしているので、ささっとバスに乗り込む。例によって大半のひとがおいてかれる。20分くらいでジャブカイに到着し、ビールを飲み飲み後の到着を待つ。全員が到着すると、中に通され、アボリジニーの展示ルームから寸劇のホールに。ここジャブカイのアボリジニーは二人の兄弟からできたらしく、すべては湿気と乾燥に分類できるとのこと。なんでも、弟が兄の脳みそを食べようとしたことからすべてがおかしくなってしまったようだが、まだまだ食事ははじまらない。

次には、池のほとりでアボリジニーが歌を歌っていて、全員にクラブスティックを持たせて輪にならばせ、これから火をつけるので力を貸せという。火はビリーというそうで、ビリーワイイとかビリージャナイとかいいながら、ハイといわされる。さんざんパフォーマンスをした後、ようやくディナー。妻が食べ物に近いほうがいいというので、上のほうの席でインドの方と一緒に座るが、あとからオーストラリアの今回の学会長であるKaye Basford先生とオーストラリア統計学会の会長Neville Bartlett先生が座ったのでちょっと場違いだったか。

食事はブッフェ、牛肉とチキン、バイクドポテトとポテトサラダ、豆、生野菜をとる。妻は牛肉が硬いといっていたが、そうでもなくおいしく食べる。食事が済むとデザートの前にもまたショーが始まるから外にでろといわれ、最初に前会長の Breslow 先生の挨拶。Breslow 先生、ビリーワイイ、ビリージャナイ、ハイなどとわけのわからないことをいっただけで降りたが、さすがは IBS の会長だと思ったのは俺だけか。そのあとオーストラリア統計学会の会長の挨拶、ディナーのスポンサーの会社 2 つの挨拶の後、さっきのアボリジニーたちが舞台の上で今度はコミックショーを繰り広げる。

最後にまた火をおこす、ともう一人の学会長の Louise Ryan 先生と現会長 Geert Molenberghs 先生が舞台に上げられ、火をつけたり踊ったりといろいろやらされていた。もう 10 時過ぎなのに、ぞろぞろと席に戻り、デザートを食べ、みんなまだまだ食べ続けている。もうそろそろ帰りたいので、待機しているバスに乗り込み、しばらくしてようやく出発。妻をだまして揉ませて寝てしまう。

7 月 16 日(金) 今日も会議

会場につくと入り口で Harvard 大の Robins 先生がタクシーから降りてくるところ。8 時半からのケース・コントロールのセッションはそのロビンス先生が座長。最初の演者は Breslow 先生。推定関数でエフィシエントなセミパラメトリック推定をする際にゴダンベの基準をつかうといいという話。つぎはニュージーランドの Lee 先生で、スコット - ワイルドの方法はエフィシエントなセミパラメトリック推定になっていることの証明、次はドイツ Eide 先生、寄与割合は足すと 1 を超えるが、1 を超えないように平均を取るという話。なにを書いているのかわからんな、これ。

4 人め講演者はキャンセルしたらしいが、繰り上げることはせずに 15 分時間を空けなければならず、最初の 3 題への質問の時間を取るとのこと。ところがロビンスが一人で質問してというよりも一人でしゃべりまくって終わる。4 人目はイギリス MRC の Rice 先生でセミパラメトリック解析をベイズ流にやるとかで、それはベイズ流のセミパラメトリック解析とは違うとのことですがなにをいっているのかわからなかった。最後はさきほどのスコット - ワイルドの Scott 先生の発表。ロビンスは自分たちの仕事に懐疑的だがちゃんとやってるぞ、というような話。途中から和泉さんがきたので、少し話をする。

ちょこっと因果推論のセッションをのぞいて、司会の Hernan と最初の演者の Mark の顔をだけ見て、2006 年の IBC プログラム委員会へ。部屋に行くと、General Secretary の Ori Davidov 先生と IBC2006 の International Program Committee 委員長 Geert Verbeke 先生が昨日のディナーについて憤懣やるかたないといった感じで議論していた。なんでもスポンサーが 2 つもついたディナーが一人 140 ドルとは信じられない、あんなショーはみたくないし、おかげで交流ができないではないか、とのこと。Davidov 先生は Conference Advisory Committee の委員長としてディナーの値段は改善しないとイケないし、今回の収支決算は詳しくチェックしないと、といっていた。

今回はカナダのマギル大学での開催で、大学でのこじんまりした学会となりそう。今年のプログラム委員長からよかった点、悪かった点の報告があり、次回も早めに準備しないとけない、ということになる。参加費やディナーの費用は、途上国の方は7分の1の値段で参加できるように、一般の参加者の参加費を値上げすることになりそうだ。会議は12時半に終わり、これで今回のIBCも終わり。

今日はサンゴ礁の上を軽飛行機で遊覧するという、それはそれはすばらしいツアーに行くことに。遊覧飛行は妻のように好きな人にはいいかもしれないが、高いところだめ、乗り物だめ、泳げないという人にとってはどうだろうか。(確率1でだめであろう。)部屋に戻ってビールで無事を乾杯し、カフェチャイナへ。広東風アヒルの丸焼きというのがあったので1/4焼きを頼むことにし、シューマイ、八宝菜、ご飯を頼みました。アヒルは可もなく不可もなく。ところが次にきた八宝菜が絶品、汁をご飯にかけてうまいまいと食べる。シューマイももちもちしておいしかった。

#### 7月17日(土) 別れのバルコニー

今日は12時半の飛行機で帰国。紅茶をいれて例によってマフィンとヨーグルトのバルコニーで優雅な朝食。チェックアウトをしてタクシーで空港に向かうとそこは日本の空港かと思うぐらいの日本人の山。帰りの飛行機もがらすきで、一人2座席を独占しゆったり。オーストラリア航空は徹底した低コスト化を実現していて、ビールはビクトリアビターのみ、ワインもコルクではなくスクリュウキャップだし、料理もメインのほかはサラダとパン、デザートだけで、まったく飾り気なし。が、それはそれで好感が持てる。

旅行直前は忙しくて体調も悪かったが、リフレッシュできた学会だった。